



第17号
H20.6月

発行人
医療法人社団
すんとおる



● 月日が経つのは早いものでもう6月、1年のうち半分が終、てしまいました。
● 1日1日を大切に過ごしたいと思う。っ、この頃、皆様、いかがお過ごしでしょうか？
● 6月は「リウマチ月間」ということ、ご存知ですか？今回はそれにちなんで、リウマチについて、院長がお話してくれます。では、どうぞ。

診察室



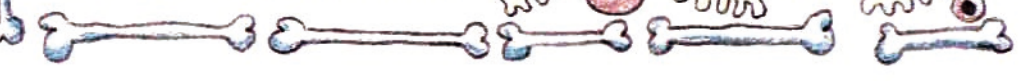
毎年6月は 梅雨(つゆ)の季節です。日本中 青森以南でジメジメとう、とうしい気候となり 健康な人でも体の節々が重たくな、てきます。ましてや 体中の関節が病んでいるリウマチ患者さんにと、ては 1年中で最もつらい季節の到来となります。そのため日本リウマチ財団では 毎年6月を「リウマチ月間」とし、リウマチに関する知識・情報の普及・啓蒙に努め、あります。そこで 今月はリウマチに関するお話をしましょう。

関節リウマチは 医学が発達した現代においても未だ 原因・病因が解明されていない難病の一つです。しかし、研究成果がたんとと積み上げられ 近年 その病態がかなりの程度まで明らかになり、そこから得られた知見が 治療にまで応用されるようになりました。

リウマチも重症になると 骨がほろほろとちがってきますが 骨も破壊するメカニズムとして「破骨細胞様多核巨細胞」が重要な役割を演じていることがわ、てきました。

破骨細胞は、正常な人間の骨に誰にても存在し、骨芽細胞とともに骨の新陳代謝をとりおこな、ております。ところが リウマチ患者さんの関節近くの骨を調べていくと、増生した滑膜が骨内に進入してあり、その境界には破骨細胞に良く似た多核巨細胞がた、くさんいるのです。

この多核巨細胞は、破骨細胞と同じように骨を溶かしていく能力を有してあり、リウマチ骨破壊の主演を演じていると考えら、れております。



この「破骨細胞様多核巨細胞」は どこからきたのか？ 諸説あるのですか 滑膜中のマクロファージ(免疫細胞の一つ)がある種の条件下で分化・活性化されて、「破骨細胞様多核巨細胞」に変化していくらしいのです。

この変化の諸条件の一つとして「炎症性サイトカイン」が重要であることがわ、てきました。サイトカインとは、生体内にごく微量存在するタンパク質で、細胞の分化、発生に重要な役割を演じ、細胞間の情報伝達をおこな、ております。この「炎症性サイトカイン」はこれまで数種類発見・同定され、それらは相互にネットワークを形成し、つ、情報伝達をおこな、てい、るらしく、その様態は「カスケード(滝)」に喩えら、れています。この「炎症性サイトカイン」を適切にブロック・中和すれば、リウマチの炎症・骨破壊を抑制することが可能です。

その目的のために開発された薬剤が、「生物学的製剤」と呼ばれるもので、近年、一般医療でも使用される様にな、てきました。ただ、肺炎・結核発症などの重篤な副作用を引き起こすこともある薬剤なので、リウマチ専門医の厳重な管理の下で、使用されるべき薬です。

関節リウマチも程度の差は大きく、また本当にリウマチであるか？他の病気ではないのかも問題となります。関節が腫れてきて、痛みが続く場合は、まずリウマチ専門医に相談した方が良いでしょう。

関節リウマチの病態解明、完全制圧も、そう遠い日の事ではなさそうです。

またまた骨の間に骨が！！
得々キャンペーン
~~~~♪♪♪~~~~

運重カも始めたいあなた、今がチャンス!!  
月会費が1ヶ月分無料!!  
あなたのための、あなたに合った運重メニューを作成。  
見学・体験できます。是非一度お試ください。  
詳しくは院内スタッフまで 2F x-rayフロア